

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 4月27 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	279500104	
法人名	株式会社プラティア	
事業所名	グループホームプラティアひょうたん山	
サービス種類	認知症対応型共同生活介護	
所在地	大阪府東大阪市新池島町1-1-5	
自己評価作成日	平成27年3月10日	評価結果市町村受理日 平成27年5月7日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/">http://www.kaigokensaku.jp/27/</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107
訪問調査日	平成27年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針である①ご入居者様が主人公 ②尊厳を保つ ③いきいきとした生活 ④認知症の進行を防止 ⑤地域社会と共に を柱としたケアに重点を置き、柔軟かつ繊細な対応に努めている。職員は入浴などのケアに関しては利用者が希望される時に対応できるように心がけ、認知症や接遇などの勉強会を実施し尊厳を持って接している。また近隣の店舗、ご近所の畑を活用させていただく事で、閉塞感の無い生活に役立っている。地域との交流の取り組みを重視し、自治会行事への参加、他のホームにも外出。人員は人員基準以上の人数で個別ケアに対応できる体制を取っていて、利用者様中心の生活環境を提供できるように利用者本位のケアを実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

川沿いの桜並木が見渡せる環境にあり、館内は落ち着いた木調で統一され、採光よく明るく清潔な生活空間の中で利用者がゆったりと過ごされている。運営理念と運営方針の理解と実践に取り組み、自治会と連携を密にし地域との交流を深めている。「寄り添い介護」を活用し、職員が利用者一人ひとりの状況・意向・要望の把握に努め、その人にあった個別ケアができるように取り組んでいる。日常的な家事への参加や散歩・買い物への外出、個別の希望を叶える外出等、利用者が偏りなく参加できるように配慮しながら、生活の活性化に努めている。年間計画に基づいた研修会・委員会活動・定期的な会議などの継続的な実施により、職員の資質向上と職員間の共有と連携が図られ、サービスの質の向上に取り組まれている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>出勤時詰所に基本理念を掲示しており、常に意識して業務を行い、また全体会議でも唱和したりしている。</p>	<p>4項目の運営理念と5項目の運営方針を掲げ、その中に地域密着型サービスの意義や役割が盛り込まれている。常に意識できるように詰め所に掲示し、月に1回開催する全体会議では唱和し周知を図っている。新人研修ではまず運営理念と運営方針を説明し、定期的に法人代表者が講師を務める研修の機会にも必ず説明し、理解を深めている。研修や会議の中で常に利用者の尊厳を考えながら支援することを共有し、理念の実践に努めている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>常日頃からお散歩・外出をしたり夏・秋・春祭の参加をさせて頂いたりして交流の場を作っている。</p>	<p>日常的に散歩やスーパー・郵便局など、地域に出かけている。自治会に加入し、季節の祭りなど自治会行事に参加している。社交ダンス・民謡・楽器演奏などについては、イベントに出かけたり、ボランティアでの来訪を受けたりし交流している。自治会の依頼で介護相談を受けたり、認知症の勉強会で講師をするなど、地域貢献にも取り組んでいる。</p>	

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>自治会の人の繋がり で無料相談や認知症の勉強会を開催をし地域への貢献をして 行ってる。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>毎月必ず運営推進介 護を行いGHからの 報告を行い、意見・ ニーズ等質疑応答の 場をもっており全体 会議で報告させて頂 いている</p>	<p>運営推進会議は、利用 者・家族・自治会長・ 地域包括支援センター 職員が参加し、年に6 回開催している。事業 所からは、利用者の状 況・運営状況・事故事 例・活動や取り組み等 について報告してい る。地域包括支援セン ター職員からはインフ ルエンザや虐待防止な どについての情報提供 を、自治会長からは地 域の行事案内などの提 供を受けている。参加 者からの情報・意見・ 提案を、運営やサービ スに反映させるように 取り組んでいる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り 、事業所の実情やケアサービスの取組み を積極的に伝えながら協力関係を築くよう に取り組んでいる。</p>	<p>地域包括等常に連絡 を取り合いニーズ等 を相談したり意見を 聞いたり市の開催の 勉強会に参加したり している。</p>	<p>運営推進会議に地域包 括支援センター職員の 参加があり、事業所の 現状や取り組みなど について伝えることが できている。市の地域 密着型サービス事業 所の交流会やグルー プホーム連絡会に出 席し、連携に努めて いる。法人代表者が 市の地域密着型グル ープホーム連絡会の 座長を務めているこ とから、行政との連 携は密に取られてい る。法令解釈や加算 についてなど質問が あれば、電話や窓口 で相談している。</p>	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践                  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>年間の勉強会の中に身体拘束取り入れ、なおかつ外部研修に行ったりホームの禁止事項に搭載している。</p>	<p>身体拘束廃止マニュアルを作成し、その中で身体拘束はしない方針を明文化している。年間の研修計画の中に「身体拘束廃止」についての研修を盛り込み、拘束をしないケアについて定期的に学ぶ機会を確保している。研修は全体会議の後に、ほぼ全員が参加できるように工夫している。身体拘束委員会を設置し、話し合われた内容は全体会議で伝達し周知を図っている。家族には、契約時に身体拘束はしない方針をリスクを含めて説明し理解と協力を得ている。館内の行き来は自由に行えるが、安全面を考慮して玄関だけは施錠している。施錠も行動を制限する行為であることは、研修・会議などで話し合う機会を確保している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底                  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待の内外部研修や委員会を立ち上げて日頃から指導を行い職員に伝達していったる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用                  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>市などが主催する勉強会に管理者が参加し、ホームに持ち帰り伝達したりして努めている。現在、成年後見制度を利用されている方が1名いる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得                  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際に重々に説明を行い日頃から不安や疑問などこちらからお聞きしたり玄関に重要事項説明書を掲示している。</p>		

<p>10 6</p>	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月、会議を開催し意見や要望を聞き入れたり、日々の業務の機会でも意見を聞き反映し、外部の人の意見を取り入れたりしている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置しているが、意見・要望は管理者や職員に直接伝えられている。2カ月に1回、担当職員が利用者の日々の生活の様子を家族にお便りで報告したり、家族の来訪時には管理者や職員から声かけを行い、意見や要望を言いやすいように配慮している。聞き取った意見・要望は、管理者層が把握し、内容に応じて、申し送りノートで共有したり、会議で検討するなど、迅速な対応に努めている。利用者の運営推進会議への参加を促し、外部者へ意見を表せる機会を設けている。</p>	
<p>11 7</p>	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>日頃意見の良いやすいようにコミュニケーションを取ったり年数回面談を実施したりして疑問・質問を取り入れ働きやすい環境作りに取り組んでいる。</p>	<p>全体会議・ユニット会議・カンファレンス・委員会など、職員から意見や提案を聞く機会を設けている。日常的にも管理者層は職員からの意見や提案を聴取するように心がけている。定期的にエリア統括マネージャーや管理者が個人面談を行い、職員から意見や提案を聴取したり相談を受ける機会を設けている。職員が提出する人事考課表にも意見を記入する項目がある。毎月行われる法人の管理者会議で、法人代表者に職員の意見を伝える機会がある。職員の異動については、職員の希望や適性を考慮し、利用者との馴染みの関係について十分に配慮した上で最小限にとどめている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>仕事に常に目を向け、日頃業務内容を観たり確認し指導や相談にのり、評価される人事考課表を実施し、モチベーションの向上に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時に研修を行い年間の研修会を内外研修を行い普段の業務でも指導していった。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>会社の取り組みとして研修会がいなくても交流会を年数回開催して人脈を通じて意見交換の機会を設けている。</p>		

**II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援**

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時にアセスメントを行い特に関わりの機会を多く持ち本人様との会話だけでなく表情等から不安など読み取りやすい環境づくりをしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>契約時に要望をお聞きしたり意見箱や面会時に話掛けたり信頼関係を構築に努めている。</p>		

17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>面会時に聞き取りを行い情報収集をしてニーズの高いと思われる内容を話し合いサービスに反映している</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日頃から会社の方針である利用者本位であるケアに取り組んでおり寄り添ったケアに努めている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>契約時にも預けたままでは無く時間を作って頂けるように説明し、ホーム家族さんで本人様の充実した生活のおくれるように協力していつている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外出の機会を多く持ち本人様家族様からお聞きして交流の場を提供している。</p>	<p>入居前の面談や入居後の会話の中で、馴染みの人や場所についての情報の把握に努めている。把握した情報は、アセスメントシートや入居者情報共有ノートに記載し共有を図っている。日々の外出や「寄り添い介護」の外出を活用して、馴染みの場所への訪問を支援している。また、馴染みの人の来訪も歓迎し関係継続を支援している。</p>	

21	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員が間に入り利用者様同士の関係のフォローをおこない関係を深めていけるように支援している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去されても家族様・本人様の状況ニーズをお聞きしていつでも相談出来るように支援している。</p>		

**Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント**

23	<p>9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時にアセスメント行いそれ以外でも生活の中で要望聞いて出来る限りその人の望みを叶えていけるように努力している。</p>	<p>利用者・家族の思いや意向についても、入居前の面談や入居後の会話の中で把握に努めている。把握した思いや意向は、アセスメントシートや入居者情報共有ノートに記載し共有を図っている。把握が困難な利用者については、日々の関わりの中での何気ない言葉や動き・表情に留意して、利用者の視点に立って話し合い、支援に活かすように取り組んでいる。</p>	
24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>家族様 利用者様双方から情報をお聞きして家で生活スタイルを出来る限り継続できるようにサービスを提供している。</p>		

25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>ケア記録カンファ等で職員間で情報を共有して利用者様の生活スタイルの把握に努めている。</p>		
26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日頃から本人様の状態の把握に努め面会時等で家族様からお聞き話し合い職員間でも話し合いプランに落とし込んでいる。</p>	<p>入居時にアセスメントを行い、2週間以内に初期計画を立て、2回目は3カ月後、その後は6ヶ月毎を基本に見直しを行っている。介護計画から4項目を行動実施表に挙げ、毎日実施状況を記録し、1ヶ月ごとに担当者が評価を行っている。その評価を基に、月に1回開催するフロア会議で、介護計画の見直しを行っている。介護計画を見直す際には、家族来訪時や電話で意向・要望を確認し、往診時に主治医の意見を聞き、計画に反映させている。利用者の状況や家族の希望などに変化があった場合は随時見直し、現状に即した介護計画の作成に努めている。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の記録・モニタリングを行い毎月見直しを行い一人ひとりにあったケアに努めている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>常に職員間での申し送りを行い管理者・看護師等も連携し課題分析を行い柔軟に対応出来るように取り組んでいる。</p>		

29	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の情報に努め地域の人からもお聞きしたり家族様にもご協力して頂き本人様の残存機能活かし環境面にも拝領している。</p>		
30	<p>11</p> <p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診時管理者同行したりし、意見を代弁したり紹介状等で医療情報を提供し速やかに対応している。</p>	<p>協力医療機関から2週間に1回の往診があるが、利用者や家族が希望する医療が受けられるように支援している。入院が必要な場合には、協力医療機関と連携を図り、適切な医療が速やかに受けられるように支援している。必要時には訪問看護の訪問も受けられる。往診の結果は、来訪時や電話で家族に報告している。個別の受診は、家族同行が基本であるが、状況に応じては職員が同行支援している。</p>	
31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>報連相の徹底を図り管理者・リーダー・看護師と密に連携体制を構築している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>日頃から挨拶兼て病院側と意見交換を行い、入院時も早急に対応して頂いており密に連絡取り合っている。</p>		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援                  重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時にも説明し終末期の時期にはいる前に医師家族さん交えて話し合いの場を数回設けその都度状況に応じて対応している。管理者が先頭に立って取り組んでいる。</p>	<p>契約時に、「医療指針説明書」を基に、看取りについての指針を家族に説明している。終末期を迎えた段階で、家族・主治医・看護師を交えて、管理者が事業所でできる事・できない事を説明し、支援方針について話し合い、家族の同意を得ている。状況が変化した場合には、くり返し話し合う機会を設けている。年に1回、看取りについての研修会を実施し職員間で共通認識を持ち、統一した支援を行うことができるように取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え                  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急搬の対応を勉強会実践交え開催し、各階にマニュアル・急変一覧表に表し掲示している。</p>		
35	13	<p>○災害対策                  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2階最低でも消防訓練行い会議でも報告し文面で記録残し熟知している。</p>	<p>1年に2回、消防署立会いの下、昼夜想定で総合訓練を実施している。その他にも、定期的に短時間の訓練を実施している。運営推進会議などを通して、地域の方に見守りなどへの協力を要請している。水・食料の備蓄を行っている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個人情報勉強会も開催しており生活の中でも人間の尊厳を守るように常に気を配っている。</p>	<p>運営理念・運営方針に、利用者一人ひとりを尊重する姿勢を明文化し共有に努めている。年間研修計画に「接遇・プライバシー保護」の研修を盛り込み、定期的に学ぶ機会を設けている。特に言葉遣いに留意し、会議などで振り返るとともに、不適切な場面があれば管理者や職員間で注意し合っている。申し送り時には、インシヤルや書面上を指さして伝え、個人名は出さないなど、プライバシー保護に細かく配慮している。写真の掲示には契約時に了解をとり、個人ファイル等は鍵のかかる書庫に保管するなど、個人情報の適切な管理に努めている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>コミュニケーションの中で本人様の要望お聞きし利用者様に決定して頂いている。必ず耳を傾けている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>会社方針である利用者本位を現場にも通達しており個人個人にあった生活スタイルを提供に努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご自分で出来る人にはご自分でして頂き出来ない人にはこちらから衣類・化粧・ヘアケア等美意識を忘れないように支援している。</p>		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>基本スタイルとして入居者様に盛り付けや食材を切って頂き、好みに応じて工夫し、明るい雰囲気でおのおの楽しく食べられています</p>	<p>法人全体で食材の搬入を受け、食材の搬入業者の管理栄養士が作成した献立を基に、各ユニットで手作りで調理を行っている。季節感や利用者の好みを取り入れ、献立をアレンジすることもある。利用者の嗜好や禁忌食は入所にアセスメントしているため、必要に応じて代替え食を提供している。きざみ食・ミキサー食にも対応している。野菜の皮むきやカット・盛り付け・配膳・下膳など、利用者の好みや力を活かして作業に参加できるように取り組んでいる。フロア単位で寿司やうどん等の外食を楽しんだり、個人の要望に沿って個別に外食機会を持つ等、変化も楽しめるように努めている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>傷病には留意して、食事の量、栄養面、水分摂取量を個々に考え、援助させていただいています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアの声掛け行い、見守りや介助が必要な人には職員がお手伝いをして口腔内の清潔保持に取り組んでいる。</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレでの排泄を基本として対応し、麻痺のひとつでも一部介助にてトイレでの排泄を心がけている。</p>	<p>全員に排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。声かけ・誘導・一部介助など、個々に必要な支援を行うことでトイレでの排泄に取り組んでいる。排泄用具や介助方法など、検討に必要があれば日々のショートミーティングで検討し、迅速に対応している。可能な限り同性介助を実施し、声かけの仕方に配慮するなど、羞恥心への配慮を周知している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日常の食事で食物繊維、水分摂取、乳製品等の食物で自然な形での排泄を促す取り組みをしている</p>	/	/
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>本人様に確認行い納得して頂いて入浴をして頂いているが、夜間入浴は今はいない。</p>	<p>基本的には、週に2回以上、午後の時間帯で利用者の希望の時間に入浴を支援している。個浴で、また、異性介助を嫌がる利用者には同性介助で、羞恥心への配慮に努めている。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせず、タイミングや職員を変えて対応している。ゆず湯・入浴剤・音楽・好みのシャンプーやソープの使用等、入浴が楽しめるように工夫している。</p>	

46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりに合わせいつでもベット休んで頂いたり、就寝前に足浴等したりして入眠できるようにしています。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>使用している薬の内容の把握はもちろん、変更に関しても薬剤師からも説明を受け介護日誌の申し込み欄で職員全体が把握できるように工夫している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴や趣向をお聞きしてその人にあわせた生活を送っていただけるよう努めア行い、ホームで喫煙、飲酒も認めています。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>個々の希望、残存機能にあわせ、外出ほぼ毎日出来るように工夫している。家族との外出も希望にあわせ、積極的に行っています。</p>	<p>散歩や買い物など日常的に外出の機会が多く持てるように努め、気候のよい時期にはほぼ毎日外出できるように支援している。「寄り添い介護」を活用し、利用者全員が均等に外出できるように、また、希望に沿った場所に外出できるように取り組んでいる。フロア単位で遠足に出かけたり、個別や少人数で美術館・通天閣・ブドウ園など、普段行けないような場所にも、家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。</p>	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理が出来る方は、自己管理にて嗜好品を買いに職員と買い物しにいたりしている。自己管理が出来ない方は、事務所で小口現金を預かり、希望にそって対応している。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者様の希望に合わせて、かけていただいたり、ご本人で携帯電話を所有して使用されている人も居られる。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は常に清潔に保ち、ベランダに花や植木を置き、リビングには季節感を感じるように壁絵などを展示している。</p>	<p>木調で統一された共用空間は、明るくゆったりとした広さを感じられる。清潔に整理整頓された中に、季節感のある飾りや行事の写真などが掲示されている。テーブル・ソファ等が数か所に配置され、思い思いの場所でくつろげるように配慮されている。キッチンが隣接しており、調理の音や匂いから家庭的な雰囲気も感じられる。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング以外に敷地内に机・イス・植物を置きゆっくりと過ごせ、気の合う方同士や一人でも過ごせるスペースを確保している。</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が自宅で使用していた家具類・テレビ、中には仏壇等を持ち込んで頂き、親しみのある物を設置して良い住環境作りに努めている。</p>	<p>家族の協力を得て、自宅で使用していた馴染みの家具や道具を持ち込んでもらうように勧めている。ベッド・たんす・テレビなど使い慣れた家具や、写真・装飾品・仏壇など思い出の品を配置し、その人らしい落ち着いた過ごせる居室空間づくりを支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内には手すり・介助用のベット・L字柵・バリアフリーにして不備がないように工夫している</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	<p>①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない</p>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	<p>①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない</p>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>

59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない
		○	